

## 航海訓練所第3期中期目標・計画の概要

「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」及び「主要な事務及び事業の改廃に関する勧告の方向性」で求められている事項を反映するとともに、外航・内航海運それぞれに求められている能力ある船員を輩出するために必要な教育・訓練について、国と民間との適切な役割分担を検討のうえ、国の政策に沿って、業務を効率的に実施する。

## 航海訓練をめぐる環境

- ☆ 資質教育への期待の高まり
- ☆ 船舶の安全運航・海洋環境の保護への関心の高まりによる安全・環境に係る管理能力の強化
- ☆ 内航船員の著しい高齢化に伴う若年船員の「即戦力化」が緊急的な課題

## 基本方針・勧告の方向性

- ◎ 船員教育機関等との連携強化
- ◎ 「大成丸」の代替船は運航経費を縮減
- ◎ 自己収入の確保・受益者負担の拡大
- 効率化目標の設定等、給与水準の適正化等、契約の点検・見直し、保有資産の見直し等、内部統制の充実・強化、事業の重点化及び透明性の確保

◎個別事項  
○全独法共通事項

## 中期目標

## 業務の質の向上

- ・海運業界に必要な船員像及び官民の役割分担の明確化
- ・海運会社及び船員教育機関との連携強化による訓練内容の改善
- ・船舶の安全運航・環境保護に係る管理能力の強化
- ・内航用練習船の導入による若年船員の即戦力化に向けた訓練の充実・強化
- ・内部統制の充実・強化

## 業務運営の効率化

- ・内航用練習船導入による訓練体制の整備、要員の縮減
- ・一般管理費6%、業務経費2%の削減

## 財務内容の改善等

- ・訓練受託費の引き上げ
- ・受益者負担のあり方について検討
- ・総人件費の削減など

## 中期計画

- ・産官学一体となって船員像等を検討
- ・海運会社、船員教育機関との意見交換、人事交流などによる連携強化、訓練の改善
- ・リーダシップ等の資質訓練の強化
- ・実践的な海事英語訓練の実施
- ・安全管理体制の理解の促進
- ・船橋、機関室でのマネジメント訓練の実施
- ・内航用練習船による瀬戸内海での内航訓練、内航船の実態に合った訓練で即戦力を養成

- ・内航用練習船の導入航海訓練の見直し、管理部門の簡素化による等により、業務運営を効率化
- ・訓練受託費の引き上げ  
月額5,000円(H21) → 11,000円(H27)
- ・外航海運会社に加え、内航海運会社等についても受益者負担を検討
- ・国家公務員に準じて人件費を削減

質の高い訓練を効率的に実施、優秀な海技者を養成